

J A R L

香川クラブ報

No. 403 平成27年10月15日



製作技術講習会 (9月13日)

J A 5 Y D E

クラブミーティングのご案内

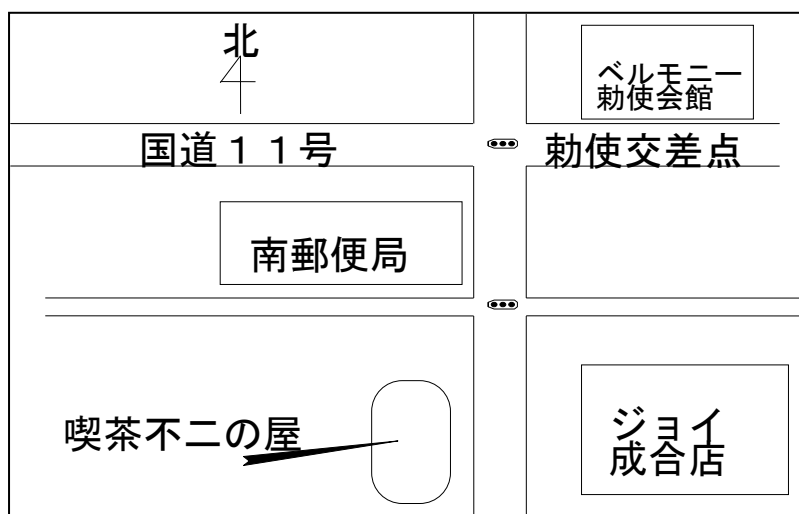
台風・低気圧等で各地でかなり被害に遭っていますが我が香川県はお陰様で被害も少なく助かっています。

恒例の11月に行われている「高松市震災対策総合訓練」は今年は関係局の行事が多く中止とのことですのでお知らせいたします。市民に取っては中止は良いのか悪いのかわかりませんが。

年末まであとわずかですが行事等の打ち合わせを致したく、ご多忙とは思いますが多数の御出席を宜しくお願い申し上げます。

記

日時： 11月12日（木） 19:30～21:00位
場所： 成合町 喫茶不二の屋
議題： 1. 香川マラソンコンテスト
2. 忘年会
3. 8J590Y
4. その他



2015年オールJA5コンテスト結果速報(H27.7.18～19)

電信電話の部

430MHz	四国第5位	香川第1位	JI5SAO	36点
--------	-------	-------	--------	-----

電信の部

社団局	四国第2位	香川第2位	JA5YDE	10,812点
マルチバンド	四国第4位	香川第2位	JI5XTP	20,889点
7MHz	四国第1位	香川第1位	JG5JXW	12,150点
14MHz	四国第2位	香川第1位	JH5LYW	130点
144MHz	四国第2位	香川第1位	JH5EZB/5	36点

香川1位のみ表彰対象

CWトレーナーの製作に参加して

J A 5 I J L 林 廣次

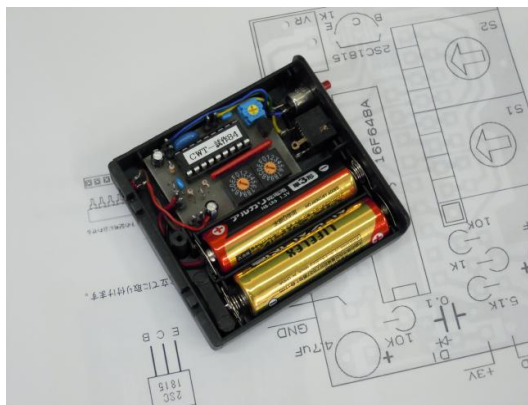
先般9月13日(日)に行われたJARL香川県支部主催の製作技術講習会に初めて参加してCWトレーナーを作りました。あとで聞いたことですが8月31日の締切日に電話したところ、私の申し込みは最後の一人でした。初めてのことで自信がなく、ためらっていましたが勇気を出して申し込みました。兵庫県や愛媛、徳島からも参加者がおり総勢13名でした。場所は栗熊コミュニティーセンターで講師はキャリブレーションの児玉さんという気さくな感じの方です。私たちのテーブルは4人グループで私の前は初めて参加の鶴川さん、斜め前はクラブ仲間の平賀さん、隣は製作大ベテランの芥さんです。前JARL会長の稲毛OMも覗きに來られて同じテーブルに座られ緊張しました。

いよいよ講師から製作の説明が始まりその後、私も基板の半田付けを開始したのですが



慣れないせいか半田ごてや
はんだを当てると基板が動
いてなかなかうまく半田付
けが出来ません。困っている
と隣席の芥さんが「小さな軽
い基板はこんな固定する道
具があると便利です」と固
定する挟む道具を貸してく
れた。説明の手順に従い抵抗
やパーツをつけていくが
PICの時は足の間隔が狭く
18個も足があり手が震え
ました。下の写真で見ると
に基板は乾電池2本より少
し小さめの物で部品点数が
約20個、半田付け箇所約7

0ヶ所くらいでしたが途中で食事時間となり、皆さんと近くのうどん屋さんでの昼食となりました。食事が終わるとすぐ部屋へ帰り遅れ気味の作業時間を取り返すべくすぐ作業を開始しました。何とか基板を完成させて動作チェックを受けると一回でOKをもらいホッとしました。



製作の第2段階は電池ケースの加工と一部のパーツ、及びプリント基板の組み込みです。電池ケースは説明書通りで簡単に加工出来て良かったのですがSWやイヤホンジャックの穴あけは失敗する人もいて慎重に作業を進めて取り付けました。その後はプリント基板を両面接着テープでケースに張り付けて各端子にビニール線を半田付けして完成です。

完成した後、電池を入れてイヤホンを取り付け、試験受信をしましたが順調にモルスの信号が聞こえてスピード調整やプログラムの変更の確認が出来て大満足。

初めての製作でしたが今回参加して、本当に楽しい1日でした。

生まれ変わったバイク

J A 5 T O P 平賀正明

少し前、クラブ員の方が車の改造をしていることを聞き見学訪問していた折に、その車の脇にある2台のスクーターバイク（10年位放置）を業者に引き取り処分してもらおうとしていることを聞いて「もったいない修理してはどうか？」と提案した。持ち主は「知識がないから出来ない」とのことだったが「修理するなら平賀さんに好きな方を譲るので残り1台を自分でやりたいから教えて！」ということになり、うまくいかなかったときは処分することにして持ち主宅で一緒に勉強しながらの修理となった。

私は過去、調子の悪い4サイクルの田植え機、スーパーカブ、小型耕運機、2サイクルの草刈り機などの修理をしたことがあります、それぞれ調子よく動いている実績はあるものの、全て我が家で時間を気にせず修理出来たからでした。今回は持ち主宅で大それたことに人に教えるとは！陰でクラブ仲間の横田先輩に「本当は我が家でゆっくり触りたかったのですが・・・」とつぶやきました。

いよいよ約束の朝、初めて触る2サイクルエンジンの修理が始まります。訪問すると、



すでに持ち主は残すとしたバイクのカバーを一部外して作業が始まっているではありませんか。しかし、二人になってもどうやって外装カバーを外すのやら、どこにキャブレター（気化器）があるやら、点火プラグは、エアーフィルターはどこ？と先が思いやられそうでした。オイルタンク（外す必要無し）を外しにか

かるがなかなかうまくいかない。バッテリーもダメで本来12Vのものが2V位しか電圧がありません。時間がかかり途中から「平賀さんが持ち帰る方（紺色と決めていた）をやりますか」ということで、ヤマハビノ2サイクル50CCエンジンのスクーターに取り掛かる。外装カバーを手探り状態で何とか外して、何年も放置状態であったエアーフィルターを開けるとスポンジがぼろぼろと崩れる。あまり影響が少ない場所なのでとりあえず元に戻して、次はキャブレター（以後キャブと呼ぶ）を見る。「外れるのかなー」と思うようなところにある。接続されたホース類を外し、エアーフィルターに接続の太いゴム管のバンドをゆるめてエンジンへの混合気管の接続を外せば出てくるが、混合気管は肉厚のゴムとプラスチックで接続されており、重なりが深くなかなか外れない。ドライバーでゴムが破れるほどこね上げてやっと外れた。これは何度もやれば間違いなく壊れるだろうと思いながらキャブを半分フリーにした。しかし、まだ外したい細いホースがかしめで接続されており私達二人共これは外すと壊れそうだと判断、接続したまま裏から掃除することにした。（これが後で大きなことになる）何とかフロート弁やメイン、補助ノズルなど外し

て穴のつまりや掃除も出来たが、完全に自由にならない状況でホコリまみれになり「きれいなウエスを敷いた方が」と心配する一幕も、何とか元通りに組み付けた。次にプラグを点検するとススけて真っ黒だった。これは新品を買って来て交換した。これで普通であれば始動するはずである。いよいよ新しいガソリンを入れて充電したバッテリーをつなぎセルモーターを回すがまったく動かない。ブレーキレバーを握らないとセルモーターは回らないことにも気付かないほど力が入っていた。それからまったく始動の気配がありません。プラグを外して外で火花を見たがきれいな火花が出ており、点火系統は問題無いと判断した。バッテリーでセルモーターが回らなくなるほど回したのにプラグがしめっていないことに気が付いた。混合気に来ていないのはガソリンが来てないか、キャブの中でうまく霧吹き状態で気化してないかですが、ここにきて疲れがドッと出てやる気が消えた。もう一度ガソリン経路のチェックやキャブをバラす元気もなく 1 日目を終了した。



その後都合がつかず、10 日ほど経過したあと、やっと自分の時間が取れて 2 回目のチャレンジとなった。持ち主が出かけており電話で許可を得て現地作業にかかった。燃料系統のチェックを進めたがガソリンタンクからキャブまでの回路にコックは無く、良く解らない四角い小さな箱状のものがある。分解してみるとキャブの負圧

を利用したダイヤフラム（ゴムの薄い膜）弁であり長く動いてない為、ガソリンが入ってくる入り口のゴム弁が固着しており、この分解により抜き取り後の燃料タンクの残りのガソリンが少量とはいえ漏れ出してビックリ。じょうごと瓶で抜き取りながら原因が分かったと思い 1 人ニンマリとした。そして再度組み立ててキックがけを試みるがプスンとも言わない。とりあえずカバーを取り付けてこの日は 2 時間余りで作業を終えた。前に草刈り機のダイヤフラムポンプで苦労したことを思い出してヤマハの販売店へ行き、ダイヤフラムのゴムを注文しようとしたら、販売店のご主人が丁寧に教えてくれて「固着しても壊れることは少ないから負圧のホースを吸って弁が開くかどうかを見てから注文したら良い」とアドバイスしてくれた。3 回目チャレンジするために電話で持ち主と打合せをすると、2 回目の分解の後、本人が家に帰ってキックすると 1 分足らずプスプスとかろうじて動いたというではありませんか。「えっー」これはもう少しで動くかと期待させる朗報でした。

3 回目チャレンジの日、持ち主と二人で朝から作業開始して販売店から教わったダイヤフラム弁の作動をチェックするが吸えばガソリンが十分に出る。ホースを元に戻してキックがけをするがほんの少しプスプスとかろうじて動く状態は変わりませんでした。そしてここからキャブで外して無いところのかしめホースを壊れることも覚悟で抜いたが壊れずに済んだ。しかしこれも関係なく万事休す。「もうやることはないなあ！」と私がこぼ

すと持ち主は他の作業を始めた。考え込むが名案も浮かばず、最後のホースを抜き完全フリーになったキャブを、ホコリなどで穴が再度詰まっていなかったか逆さからも覗いて灯油で洗浄、穴掃除をした。補助ノズル（重要である）をねじ込む先の穴も覗くことが出来て掃除針で突いてみたらズッと針が入りベンチュリー（空気とガソリンを吸い出し霧状にして混合気を作るところ）管に出てくるではありませんか。「あれー」ここは最後のホースを接続したままでは裏から見えないので掃除が出来てなかった唯一の穴であった。もうこれを最後に止めようと自分で納得するまで掃除をして組み立ててカバーまで取り付けた。（私は気づいて無いがカバーを取り付ける時間の経過が良かった）全ての作業を修了した。ダメだろうと思いながら最後のキック。ところがエンジンがブンブン回り始めた。アクセルを戻しても高めの回転が続き、あとで分かったがオートチョークがあるので少しの間は回転が高めであった。アイドル調整して、ここからキック、セルどちらも一発で始動し、調子のいいエンジン音が響き渡りました。修理途中、私の家内や友人の奥さんから「ほんとに動くの」「物になるの」と言われていたがこれで苦労が一度に吹き飛びました。

その後、家内と譲り受けるバイクを引き取りに行き、自分で運転して家まで帰りましたが調子は上々でした。友人がしばらく不在になると聞いていたので、もう一台のバイクは借りた軽四で私の家に運び、車庫の中でいつでも修理が出来るようにして後日、折りを見て作業を行った。

一番最初大変苦労しそうだったスズキのベルデ2サイクル50CCのバイクですがヤマハのビーノで苦労したせいかカバー外しも早く進み、無駄をしないですぐキャブにたどり着き、ノズルなどの手入れも掃除もすばやく約3時間で出来て組み立てを終了した。そしていよいよキックがけをするが、またまた反応が無く「ウンー」。ヤマハと同じようなダイヤフラム弁もあり、吸って負圧作動確認をしたが少しガソリンを吸い込んで気分が悪くなり、1時間くらい休憩して再度キックするとエンジンは一発で順調に回り始めました。先に修理済のヤマハビーノのバッテリーをはずして接続すると、セルでもキックでも一発始動となりました。カバーを取り付けて2台目も修理を完了した。



私はせっかちですがこの修理経験からキャブの掃除後はフロート内に燃料が来る時間くらいは待つ必要があるように思いました。あとはそれぞれのバイクにバッテリーの良品を取り付けて、ピカピカに磨かれて無事2台のバイクは生まれ変わりました。

この修理で私はメンツを保ち満足感いっぱい楽しい日々でした。ただ修理中は老眼メガネの着用

はもちろん、椅子がないと腰が痛い日々でもありました。

群馬の地に日の丸を！

J F 5 MED 山田章登

去る 9 月 6 日 (日) ~ 12 日 (土) にかけて日本の群馬県渋川市伊香保温泉を拠点に 10th IARU Region3 ARDF Championship (第 10 回国際アマチュア無線連合第 3 地域 ARDF 競技大会)に参加してきました。昨年の全国大会の成績優秀者より代表入りに JARL から選抜されたのが 5 月末頃でした。振り返れば国際大会への参加依頼はこれで 4 度目になります。いままでは、仕事の関係や財政面で叶う事の無かったのですが今回は国内での大会で比較的安心感もありましたので一発返事で OK しました。大会までの準備期間にこちらに入ってくる情報を元に受信機の仕様変更や期間中 4 部門競技が有る事で基本のルールを把握し覚える事、競技周波数に指定が有る為受信機にその対策を如何にするかなど 3 ケ月弱が大変忙しい毎日でしたがなんとか大会で使える受信機に仕上げて当日に挑みました。



期間初日の 9 月 7 日は、朝から小雨が降るあいにくのお天気模様でした。大会中に実際に使われる機材を利用した練習日でもありますので実際送信機から出される電波の距離感や従来通りの 1 分送信 4 分休みの種目と新種目の 12 秒送信 48 秒休みの慌ただしい cycle 感覚等、出力 20mw の QRPP 送信機からの連続送信等をお昼頃まで十分に練習して私自身明日から始まる不慣れな部門への対策に余念がありません

でした。振り返ってみますと大会 1 日目から雨模様でしたが今大会の 9 月 6 日から 9 月 10 日までの期間は毎日雨に悩まされる事になりました。運悪く関東地方に台風が接近して来た事もあり受信機の雨対策もさることながら 1 日中雨に打たれながらの競技大会は今まで私が参加してきた中でも想像を絶するような過酷さが有ったと思います。救いは冷えた身体を癒す伊香保の温泉に競技終了後すぐに浸かれる事で本当に贅沢な上に湯治客の様な感覚で毎日を過ごしていました。

日付が変わり 9 月 8 日の本大会 1 日目では伊香保温泉を拠点にして競技地へとバス移動で選手を運ぶ事は前々から想像していました。40 分程掛けて競技会場まで足を運ぶので私は一昨年から昨年、さらに今年にかけて何度も OL のエリア調査が入っている赤城山の裾野が会場でないか？と思っていた所、見事予想が的中しました。この OL マップは非常に詳しく調査がされていますので使う地図は植生・地形物等もしっかり書き込まれており又、実際の場所は見ごたえのある地形豊かな所でした。スタートゴール共に林の中に設定されて地図をよく見ながら地形と照らし合わせて探さないと自分の位置を見失う可能性がある上、一步間違えば山中で遭難しそうなエリアでもありました。最初の競技で私のクラスは得意とする 3.5MHz の従来の競技 (classic 1) でした。3.5MHz の場合、聞こえる電波に素直に従い方位磁石を使ったコンパスワークさえしっかりとこなせばお目当ての TX にはたどり着けます。今回、スタートしてすぐ受信開始地点では動き出さず方探を入念に行ったうえで TX 探索に臨みました。1 番 TX、続いて雨が降る中、苦勞しながら道の無い山中を駆け上がり植生の変化を確認しながらやっとの思いで

見つけた 2 番 TX、ここから 3 番 TX へと向かっているとビーコンが強く入感して受信機に混信してきたので 3 番 TX を探し当てるのに思いのほか時間が掛かりました。その後 4 番 TX を探し出して最後のゴールまでは道なりの距離よりもビーコン信号を一直線に追う方が効率良いと判断し地図の植生を頼りにコンパスワークでゴールに駆け込みました。3 番 TX のミスが響き結果は個人 5 位でした。

翌 2 日目は台風の影響が強く大雨と風の中、伊香保温泉から近い運動公園で 12 秒送信 48 秒休みの (sprintARDF) 競技がおこなわれました。これは、3.5MHz 競技ですが 1 分で 5 個の TX すべてが聞こえる今までに経験した事の無い新種目です。関東圏のエリアでは、今年何回か競技会を開催したらしいのですが西日本、ましてや四国での開催は未だ無しの未知なる新種目に、わくわくする期待よりも不安な気持ちの方が勝っていました。練習日に聞いた経験と感覚を頼りに競技本番に臨みましたがやはり、経験者にはかなわずトップタイムの時間からは 15 分も引き離される結果となってしまいました。この競技は実践経験を多く積んで臨むしか無いなあ～と思いました。次回国内の地方大会でやる機会が有ればリベンジしたいと思う競技種目でした。

3 日目は (classic2) 競技でした。普段国内で行われる 144MHz のいつもの競技なので気負いする事無く挑みましたが今回の競技用地図に違和感を覚えそれが最後まで尾を引くことになりました。普通 OL 地図は磁北線の真上が北なのですが今回の地図は磁北線が真下を向いていました。OL 大会では、たまにこんなトリッキーな地図を使うことが有るらしいのですが私は初めてそんな地図で競技に挑む羽目になりました。競技者すべて同じ条件なので不平不満等は言えませんが、掲示板に掲げてあった地図を最初見た時、思わず顔を逆さにして見てしまいました。Classic2 は最初に行われたエリアの南東側で描かれてないエリアがメインになっていました。赤城山の下りイメージが強い地図でしたが横に移動する場合複数の尾根を横切りながら探索する 144MHz の競技をする場合正確な TX 探査を求める難易度の高い競技会となりました。受信開始の最初から入念に方探して地図の最上部に 2 番 TX が有ると判断し、最適ルートを考えながら山道を登って行きました。やっとの思いで 2 番 TX を見つけ、その次 3 番 TX の反射に手こずりながら見つけ次に 1 番 TX だと考えながら探していると 4 番 TX の電波が進行ルート直下に聞こえるのですがこの時は「これは反射波で 1 番 TX が先だ」と思い込んでおり、ろくに 4 番 TX を聞かなかった事にあとで悔いが残りました。実際私の通ったルートのすぐ近くに 4 番 TX が設定されており、そこを素通りしていた事で 1 番 TX を見つけてから戻るまでに 1 時間程棒に振る大失態を犯してしまいました。思い込みでの行動は出来る限りしないようにするのが ARDF の鉄則なのですが送信出力 0.5w 送信機からの感覚 (通常競技会使用送信機出力の半分以下) に普段の大会に慣れた自分の感覚との大きな違いに動揺し最後に手こずった 4 番 TX を捕獲後はビーコン信号を頼りにゴールへ駆け込んだ。結果は規定個数に届いたものの競技時間が掛かり過ぎて個人結果は 6 位と不甲斐ない成績でした。大会は日本チームの団体戦でも有りますから自分の失敗でチーム戦での悪影響も覚悟しました。日本チームトップは私の半分程度の時間でゴールしていましたので申し訳ない気持ちで一杯でした。

最終日 4 日目に入りやっと天気は



回復しました。今までの雨や霧の影響が全くない台風一過の赤城山の全貌は見事でまたフィールドの素晴らしさを FOX-O の競技で味わう事が出来ました。FOX-O は新種目です。あらかじめ地図に示された番号付近に送信機が置かれておりその送信機からは微弱電波ながらも連続送信がされています。それまでの classic 競技とは異なりフラグが設置されておらず TX の ANT 等の機材も小型の為、目視による発見は簡単ではありません。競技の仕方は地図上にマークされた目的のポイントまでは OL のように早く到着することを心掛けそのポイント周辺で今度は ARDF をするといった感じです。1 番～5 番までが第 1 グループ、6 番～10 番までが第 2 グループとなっておりグループ単位でチャンネルが違いますので地図上の次に探す番号を十分確認した上で探さないと勘違いで大きなロスにもつながりかねません。私の出た M40 クラスは 3 番・6 番・7 番・10 番不要のビーコンを含めた残り 7 個を探さなければならず私はスタートから 8 番・5 番・4 番・2 番・9 番・1 番・ビーコンの順番でゴールしました。最初の 1 個目を見つけた後と競技終盤の 9 番を見つけた後にチャンネルを素早く変えて挑む必要が有り地図の植生や特徴物の位置、方角などを入念に確認して一度も自分の位置を見失う事が無くその上、不安視していた受信機操作も完璧にやれたので大変でしたが振り返れば最終日にしてやっと会心の競技が出来たと思いました。

ゴールに飛び込んだ時、日本応援団(見学者&スタッフ)の声援に奮起しながら最後のビーコンチェックを終えてゴールに飛び込んだ時は必至の形相でした。スタートが早かった事も有りますがゴールにはまだ一人だけしか日本人が帰って来て無くその場の応援者の声援もひとしきり大きく感じました。結果は M40 クラスでは個人 2 位に入りましたが 1 位との差がタイムで 14 分もつけておりこの日のベストと思ったのは私だけ。まだまだ頑張らないと世界クラス上位には行けないと思いました。ホテルに帰り、その日の表彰式にて実力で勝ち取った銀メダルを表彰台の上でいただき尚且つ日の丸の国旗をわが身と一緒に掲げられた事は今後一生忘れられない思い出です。最後に、競技大会最終日の夜におこなわれたバンケットで、FOX-O の M40 優勝者でもある KB1RLI (Vadim Afonkin) 氏と交流する機会が有りましたので facebook でお友達になり又、その日のルート取りや戦略を詳しく聞く事が出来ました。氏による考えと私の考えが全て同じだったので驚きましたがそれで 14 分もの差は何処でと氏に尋ねた所、氏曰く後は「やはり脚力差がモノを言うかな？」と返事が帰ってきました。私の英語力では氏にとっては理解するのは大変だったかもしれませんが懸命のコミュニケーションで出た氏の言葉、「毎日ロードワークをして脚力をつけなさい」との事で私の今後の課題とさせていただき、次の舞台で戦うならば必ずリベンジさせて頂きたいので又会いましょうと私は発言してきました。氏も、快く受け止めて戴いた様でした。

1 週間の ARDFWEEK が終わりを迎え、それまで行動を共にしていた仲間とお別れの時を迎えましたが皆最後の言葉は「サヨナラではなくまた次のステージで！お会いしましょう」とのうれしい言葉をいただきながら現地群馬県渋川市伊香保温泉を後に帰路につきました。



第23回北四国 ARDF 競技大会に選手&スタッフで参加

J A 5 U V T 詫間 哲

北四国 ARDF 競技大会は9月27日（日）愛媛県東温市で開催されました。往路の桜三里付近では、雲が下がって雨が降りそうでしたが、その後回復し好天でした。場所は伊予鉄横河原線の終点「横河原駅」のすぐ東 重信川を国道11号線が渡る新横河原橋の近くで、スタートは西岸、ゴールは東岸でした。



私は選手とスタッフ（集計係）を兼務、主催者側で前日から成績集計のマスターセッションが途中で動かず、各 TX に設置するコントロールステーションの設定ができなくて困っているとのこと、持参した機器で設定を済ませた時には、開会式が始まる直前で、選手としての準備もそこそこに、いつものようにビデオ撮影です。

開会式を済ませスタート地点へは、旧国道の横河原橋を渡りながら、遠くの山を眺め「エリアはどこまでかなー」などと話しながらのんびり散歩気分、到着してスタートまで1時間以上もあり、これからの全日本大会などについていろいろ話がはずみました。

私のスタートは2番 10分前になり何かさみしい気がして装備品を点検すると S I カードを手にしていません。「ドキッ・・・」受付時の封筒から取り出していなかったのです。兼務ということで取りに帰る手配をして戴き、地図渡しが終わった後でしたがスタートに間に合いました。（スタートの早いのは、早く帰って集計を下さいとのこと）

私の必要な TX は 2.3.5 です。スタートして探索開始地点では TX3 が聞こえ北の方向、TX4 は不要、TX5 は北少し右で反対側の川岸かな？ 必要な TX2 が出たのは 300m 以上進んだところで西方向にある。西へ行く道は少し手前に有ったが戻ろうか？ 少し行けばまたあるだろうと前進したが 1km ほどまで無く無駄足に、そこから真西に 700m 山の中腹で GET、今度は TX3 かな、TX5 かな、山沿いの北西から TX3 が聞こえる。川岸に出る手前から北西への山道を上り 200m ほど行ったところで行き過ぎたかな？ と振り返ると道のすぐ横の木陰に TX3 があり GET、重信川西岸に出た。

最後の TX5 は強い、川の西か東か？ スタートから北へ 2km くらいの間橋がない、東岸に行けばもう西岸に戻れない。500m 以上スタート側南へ戻ったが西岸にはなさそう、また北へ、往復とプラス北へ 1km で合計 2km は遠かった。

ようやく歩道のみの橋にたどり着き、東岸へ渡るとすぐ、神社で給水ポイント、脇に

TX4 不要ですがチェック、東岸をすんなりと帰ればいいと思っていたが道が無い。水田地帯の小道をうろつきながら TX5 へ、河川敷の小さいゴルフ練習場入口で、これまた通りすぎて振り返ったら TX5 があり GET。

後はゴールへ一直線だが遠く 1.3 km もあった。総距離は 8 km を超えている。皆さんごくろう様でした。でも私はこれから第 2 の役目、成績集計です。

まず、参加選手 34 人の個人結果票の打ち出しです。プリンターを常時使う設定にする。1 枚だけ出た後が出ない。裏を見たら紙詰まり、後はスムーズに行くかと思ったら最後の 1 人になってまた止まる。SI カードの読み取り時間フォーマットが MMM. SS に変わっていて計算できない。HH. MM. SS に戻し再読み込みで OK となり完了。

表彰者リストと総合結果表を DATA で表彰状作成者へ渡し、皆さんへ渡す総合結果表作成で終了しました。



[クラブ員の北四国 ARDF 競技大会結果]

144MHz 部門(愛媛県東温市重信川周辺) 2015 年 9 月 27 日(日)

クラス	順位	コールサイン	所用時間	個数	コメント
M21	5 位	J G 5 O B X	1.57.16	4	川を挟んで東西兩岸をエリアにしている為、橋の位置が重要だったが、クラブ員は間違わず左記の成績であった。
M40	1 位	J F 5 M E D	1.12.59	5	
M50	1 位	J G 5 W T P	1.33.57	5	
M60	2 位	J H 5 L Y W	1.30.43	4 (6)	
M60	3 位	J I 5 X T P	1.32.01	4	
M70	1 位	J A 5 U V T	1.28.17	4 (5)	

近くの温泉「さくらの湯」へ行きたかったのですが時間切れ。女性軍の要望で近くのフジの一角にある「みなら産直物産市 あさつゆマルシェ」で野菜の買い入れ帰路へ、苦しくも楽しい一日でした。

不調のマスターステーションは、新潟の OM からの情報もあり本体の出口 USB コードの断線で修理復帰しました。

*大会情報(地図、成績など)は JARL 愛媛県支部ホームページ <http://www.jarl.com/ehime/>「第 23 回北四国 ARDF 競技大会終わる。」に掲載されています。

クラブ報の原稿依頼及び送付先

身近な出来事、旅行記、自身のハムライフ、掲載要望などのジャンルは問いません。
原稿サイズ：B5サイズ 出来ればWordで作成しメール、電子メールが無い場合はfaxか郵送。

送 付 先：E-mail

Fax

郵 送 先：〒761-

★★★ 新入会員募集中 ★★★

J A R L 香川クラブでは新会員を募集しています。

今年はクラブ結成67年(1948年10月結成)になります。

そこで、更なる飛躍と新たな歴史を築いていかなければなりません。
クラブに新風を吹き込むと同時に、活性化のためにも新入会員の募集にご協力ください。

*お知らせ

J A R L 香川クラブでは、会員の実態を把握するため、免許状記載事項に変更があったり、新たに無線局の免許状を取得された方は、その都度、お知らせくださいますようお願いします。

将来のインターネットサービスに対応して、現在「電子メールアドレス」を取得している方は、差し支えなければ連絡下さい。

前年度までの会費が未納の方は早急に納入をお願いします。
また、平成27年度会費につきましても早急に納入をお願いします。

J A R L 香川クラブ報

発行責任者	J H 5 L Y W	三 好 伸 幸
編 集 者	J A 5 T F J	横 田 寿 夫
	J A 5 T O P	平 賀 正 明
	J I 5 V U Z	市 原 義 博
	J G 5 J X W	坂 井 進 史